

# 第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/27】

## 男子決勝戦

大垣市水球クラブ 9

0	－	3
5	－	3
1	－	1
3	－	3

10 群馬県選抜

PSO

審判： 御崎 智徳  
坂井 奎太

## この試合のプレー集計

大垣市水球クラブ	30	SH数	32	群馬県選抜
	5	速攻数	8	
	8	ST・SB	10	
	6	SH・P誘発アシスト	13	
	52%	GK阻止率	47%	
	10	EX反則数	6	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

## 【試合の流れ】

男子決勝戦は、大会期間中に大きく成長した大垣と優勝候補の群馬という見どころ満載の対戦となった。大垣は選手個々がどうすれば相手が困るかを意識したディフェンス、対する群馬は迫力満点の攻撃力が武器。大垣は群馬の司令塔④齋藤をどこまで閉じ込められるかが勝負の行方を左右するだろう。

### 【1P】

攻撃力ではやや優勢の群馬が、⑤深澤のカウンター攻撃からチャンスをつかみ、⑥関口が中央で押し込んで群馬が先制点をあげ、ゲームが動き出した。大垣のオフェンス反則から群馬④齋藤が左サイド速攻。そこでGKを見透かすループSHを決めて群馬が2点目。さらに⑤深澤の6mSHで追加点。大垣はなかなかセンターにまでボールが回らず、外周シュートだけでは群馬にカウンター攻撃的にされてしまい、大垣らしい攻撃を封じられた第1ピリオド(大垣0－3群馬)。

### 【2P】

大垣が群馬陣地で退水を誘発して、右サイドのレフティー⑩野村が決めて1点を返す。さらにセンターで大垣④小野が退水を誘発して、⑤齋藤が決めて1点差に迫った。大垣ディフェンスが当たりにできるようになって、群馬の攻撃を止めつつあり、群馬は動いて勝機を見いだす必要が出てきた。その中、群馬は退水を誘発して、ゴールを決めたが、大垣も③中野がすかさず取り返して1点差。群馬もすぐに退水を奪って、④齋藤→②前田で得点。大垣も②池田が決めて再び1点差。群馬は右45°から④齋藤が決めて2点差に戻し、さらに退水を奪ったところで前半のヤマと判断したベンチがタイムアウトで勝負に。この作戦は功を奏せず、逆に大垣がゴール前ドライブで③中野が決めて、大垣5－6群馬の僅差で前半を折り返した。大垣はこのピリオド、ようやくゴール前までの攻撃が展開できるようになって点数を積み重ねたが、それだけ群馬ディフェンスも甘くなっている状況だ。両チームともにどうディフェンスを立て直すかが、後半の見どころになってくるだろう。

### 【3P】

群馬のオフェンス反則から大垣がセンターで⑦川合が決めて同点に(7－7)。群馬は③椎名の6mSHで群馬が1点をリード。その後は約7分間の長いラリーが続いた。その間、群馬が退水を誘発して好機をつかむも、大垣はシュートブロック、GK①高橋セーブでしのぎ通した。最後は両チームともにバテた状況で第3ピリオド終了。

### 【4P】

群馬の猛攻を凌いで粘っていた大垣だったが、群馬の圧力に屈して退水。ほとんど同時に2人が退水プレーだったが、判定は1名で、勘違いした大垣選手が一旦外に出てしまっただけでその後不正入水で群馬にペナルティを与えてしまい、④齋藤が決めてようやく点数が入った(大垣7－9群馬)。その後も、群馬はペナルティを誘発して追加点を奪い、大垣の退水攻撃もブロックして、さらに⑤深澤が大垣GKがギャングルの飛び出しを見透かして無人のゴールに放り込んで4点差。粘る大垣もが決めて徐々に点数を入れると、②池田のループが決まって2点差に戻す。残り1分で最後の力を振り絞って大垣が1点を取ったが、残り5秒。ここでタイムアップとなり(大垣9－10群馬)、群馬が優勝を決めて有終の美を飾った。

群馬のこの世代は昨年の夏春JOに続いて、桃太郎も制する同世代完全制覇の偉業を達成した。敗れたとはいえ、大垣も最後まで力の限り戦い抜いた敢闘精神は見事であった。特に今大会で最も成長著しい成果を見せたことは、これからの大きな自信となって来るだろう。今後が非常に楽しみなチームであることは確かだ。